

どんぐり教室には、作業療法士・臨床心理士・保健師・保育士・主任児童委員など、たくさんの専門家が集まります。一緒に遊びながらお子さんとの関わり方を学んだり、心配なことや困っていることを相談したりできます。



ふれあい遊び

親子がふれあい、一緒に楽しむことができます。

開催日/月に1～2回(不定期) ※9月は7日(月)と25日(金) 時間/午前10時から 対/就学前の親子 料/無料 場・問/保健センター(川角305) ☎(294) 5511、FAX(294) 5850

ばぶよち ぴょん!

～子育て支援のページ～

Vol.6

保健センターで実施している「どんぐり教室」を紹介します。「言葉が遅い気がする」、「視線が合うにくい」、「お友達とうまく遊べない」など、気になることがあるときに利用していただいています。お気軽にご連絡ください。

みんなの 声

- 先生が1対1で相談に乗ってくれます。ほかのママさんともお話しできるので、気持ち的にもとても助かっています。家でできない遊びもできます。(1・2歳児ママ)
- 専門的なスタッフのもとで、シール貼りや手遊び、体操をして、子どもが楽しく集団生活するための工夫を感じました。親同士話し合う時間もあり、悩みを共有したりアドバイスをいただくこともできました。毎回楽しみに参加しています。(2歳児ママ)



毛呂山歴史散歩

第256回

関東大震災
—当時の毛呂山町—

す。東京からの交通・通信は途絶え、縁者を心配し、食糧を背負って徒歩で東京へ向かう人もいました。

大正12年9月1日午前11時58分、関東大震災が発生しました。震源地は相模湾の北西部。マグニチュードは7.9と推測され、南関東から東海にかけての広域に甚大な被害がありました。

毛呂山町も、激しい揺れに襲われました。震災を経験した人によると、地鳴りとともに地面が波打ち、電柱もグラグラと揺れ、立つことが困難なほど強く揺れたそうです。建物は傾き、屋根瓦が落ち、墓石や灯籠は倒れ、井戸水や汚水が溢れました。

また、東京では地震発生直後から各所で火災が発生し、46時間にわたって延焼し続け、特に下町は大部分が消失しました。毛呂山町から東京方面を眺めると、黒煙と炎で空が赤く染まり、東京の惨状の凄まじさが伺えたそうです。

震災の翌日、9月2日には、「東京で凶悪犯罪や暴動が起こる」という噂が広まり、当時の東京府に戒厳令が布かれました。毛呂山町にも「東京から暴徒が押し寄せてくる」という噂が流れ、警戒態勢に入りました。地区の役員や消防団、青年団を中心に、竹刀、刀、棍棒、鳶口、鉄砲などをたずさえ、多くの人が警備にあたりました。そして、噂の広まりとともに、9月4日には、埼玉県も戒厳地区に加えられました。

しかし、戒厳地区になったことで、住民は更に噂に敏感になってしまいました。「暴徒が日高と毛呂山の境まで来た」と大騒ぎになり、各地区で半鐘が鳴り続ける中で、徹夜の警戒が行われました。

暴徒の噂は一時的なもので何も起こりませんでした。住民が平静を取り戻すのに、数日かかったといえます。現代と異なり、情報を得る手段も少なく、噂が人びとの心理を間違った方向に動かして起きた騒動でした。